

当事者が求める不妊治療の保険適用に関する報告

令和3年12月20日

内閣府特命担当大臣

(地方創生、少子化対策、男女共同参画)

女性活躍担当、こども政策担当、孤独・孤立対策担当

野田 聖子 殿



NPO 法人 Fine～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～

理事長 松本亜樹子

〒135-0042 東京都江東区木場 6-11-5 サニーコーポ・K201 号室

TEL: 03-5665-1605 / FAX: 03-5665-1606 / E-MAIL: fine-riji@j-fine.jp

URL: <https://j-fine.jp/>

私ども NPO 法人 Fine (ファイン) は、不妊・不育症の体験をもつ当事者によるセルフ・サポートグループです。私どものもとには 2004 年の発足以来、14 万人もの不妊当事者の声が届けられ、当事者またその周囲の方々からの応援をいただきながら、「不妊・不育症患者が、正しい情報に基づき、自身で納得して選んだ治療を、安心して受けられる環境づくり」等のためにさまざまな活動を行なってまいりました。

現在、不妊治療の保険適用への議論を行なっていただいている中、私ども Fine にも保険適用に関してさまざまな意見が、多くの当事者から届いております。

そこで本日は、現在・過去・未来の当事者から届いた意見をここに報告いたします。また、第 497 回中央社会保険医療協議会 (中医協) の総会のヒアリングで Fine が当事者の立場から発表した要望項目もあらためて提出いたします。

多くの当事者の想いを、是非とも、少子化対策の政策に活かしていただけますよう、また関係各所に届けていただきたく、お願い申し上げます。

◆不妊治療の保険適用に関する「当事者の意見募集」結果

不妊治療の保険適用に関しては、当事者から Fine に多くの意見が日々届いています。このたび保険適用の検討が開始され、この機会に、Fine では、現在・過去・未来の不妊・不育症当事者の意見を募集しました。当事者が、「保険適用」にいかに関心しているか、また真剣に悩んでいるか、この結果をご覧ください、少しでも当事者が安心・安全で満足できる不妊治療の保険適用の制度設計をしていただきたいと思います。願ひ報告いたします。

※結果詳細および設問は、別紙 1、別紙 2 のとおり

I. 募集概要

・目的

不妊や不育治療患者が求める、「不妊治療への保険適用」に関する意見を集める。この結果から当事者の声をまとめ、国に政策提言や要望書などを提出するため。

・内容

全 10 問。保険適用に関して期待すること、気がかりなことについては選択式。その理由やその他は自由記載。

・対象者

不妊や不育症治療を受けたことのあるすべての方（これから受ける方、受けることを考えている方も含む）

・募集期間

2021 年 11 月 26 日～2021 年 12 月 5 日

・募集方法

WEB 回答フォーム「不妊治療の保険適用に関するみんなの意見募集」にて募集

II. 回答者の概要

回答総数は 632 人で、プロフィールは以下のとおりです。

・不妊治療の経験

不妊治療中（一時的に休止中含む） 68%、過去の不妊治療経験者 25%、これから不妊治療を考えている者 4%、その他の回答 1～2%

・性別

女性 97%、男性 2%、残りはその他の回答

・年齢

30 歳代 68%、40 歳代 15%、20 歳代 14%、その他の回答 1～2%

・居住地

東京都 25%、神奈川県 10%、埼玉県・愛知県・大阪府 7%、千葉県 6%、北海道・兵庫県・福岡県 3%、その他の地域 1～2%

・就業状況

正社員・正職員（総合職） 20%、就業していない方 20%、パート・アルバイト 17%、正社員・正職員（一般職） 15%、正社員・正職員（専門職） 10%、その他の回答 1～5%

Ⅲ. 結果の概要

1、『経済的負担に関すること』が、「期待」することでも「気がかり」なことでも一番多い意見でした。

「期待」することの1番は『治療費が安くなること』、「気がかり」なことの1番は『かえって治療費全体が高額になるのではないか』という、相反する結果でした。

<期待する理由>

「単純に経済的負担軽減になるから」、「どこの病院でも同じ費用になるから」など

<気がかりな理由>

「今と同じ治療であっても保険適用外のものが入ってしまうと混合診療ができなければ自費診療となる」、「自費診療になってしまって助成金がなくなればもっと治療費用が高額になってしまう」、「保険適用外のものがこの機会に値上げされるかもしれない」など

2、不妊治療という医療について、保険適用によって不妊治療の質が標準化されるのは「期待」できるが、保険適用が逆に質の低下につながるのではと「気がかり」、統一基準で成績開示されることが「期待」されるが、チェックシステムができるのだろうかと「気がかり」である。

「期待」することで回答が多かった2番目は『質の標準化』、4番目は『治療成績の開示』、「気がかり」なことでは5番目は『質の低下につながるのではないか』、7番目は『審査やチェックシステムができないのではないか』という結果でした。

<『質の標準化』『治療成績の開示』に期待する理由>

「クリニックによる治療のバラつきがあるため」、「地方でも質の高い医療を受けたいから」、「病院選びに悩んでいるから」、など

<『質の低下』『審査システムができないのではないか』の気がかりな理由>

「チェックシステムがなければ質の低下が起こるのでは」、「技術の低下や全体のレベル低下になるのでは」、「今までの治療が保険適用によりできなくなること（質が下がること）」、「不妊治療開始の敷居が低くなることで患者が急増して病院の質の低下が起こるのでは」、「型にはまった治療しかできず狭い選択肢になるのでは」など

3、保険適用の『適用範囲や運用』については、「気がかり」なことの中で2番目に多い意見でした。

「気がかり」の中では、3番目は『年齢や回数の制限が設けられるのではないか』、4番目は『治療の選択肢が減ってしまうのではないか』、6番目は『自分が行なっている治療法が保険適用にならないのではないか』という結果でした。

<理由>

「現在受けている治療のどこまで保険適用されるのかが不安」、「助成金の回数を使い切った当事者や年齢が高い当事者から保険適用になっても治療を受けたい」という意見や、「早く詳細が知りたい」、「当事者の声を聞いて作って」など

4、保険適用により不妊治療をすぐ開始できるようになる、不妊への社会の理解が進む、仕事との両立もしやすくなるかもしれないという「期待」があるという意見でした。

「期待」することは、3番目は『費用を貯めるまで待たずにすぐ開始することができる』、5番目は『特別ではなく、他の病気と同じ感覚である』、7番目は『周囲に伝えやすい』、「その他」の意見にも4番目は『社会や職場の理解や啓もう・休暇制度の確立』という結果でした。

<期待する理由>

「早いうちから治療に取り組むことができる」、「不妊治療が特別なことではないと常識になっていくかもしれない」、「周囲に話しやすくなる」、「職場の理解が得られ休暇が取れるなど（仕事と治療を）両立しやすくなる」など

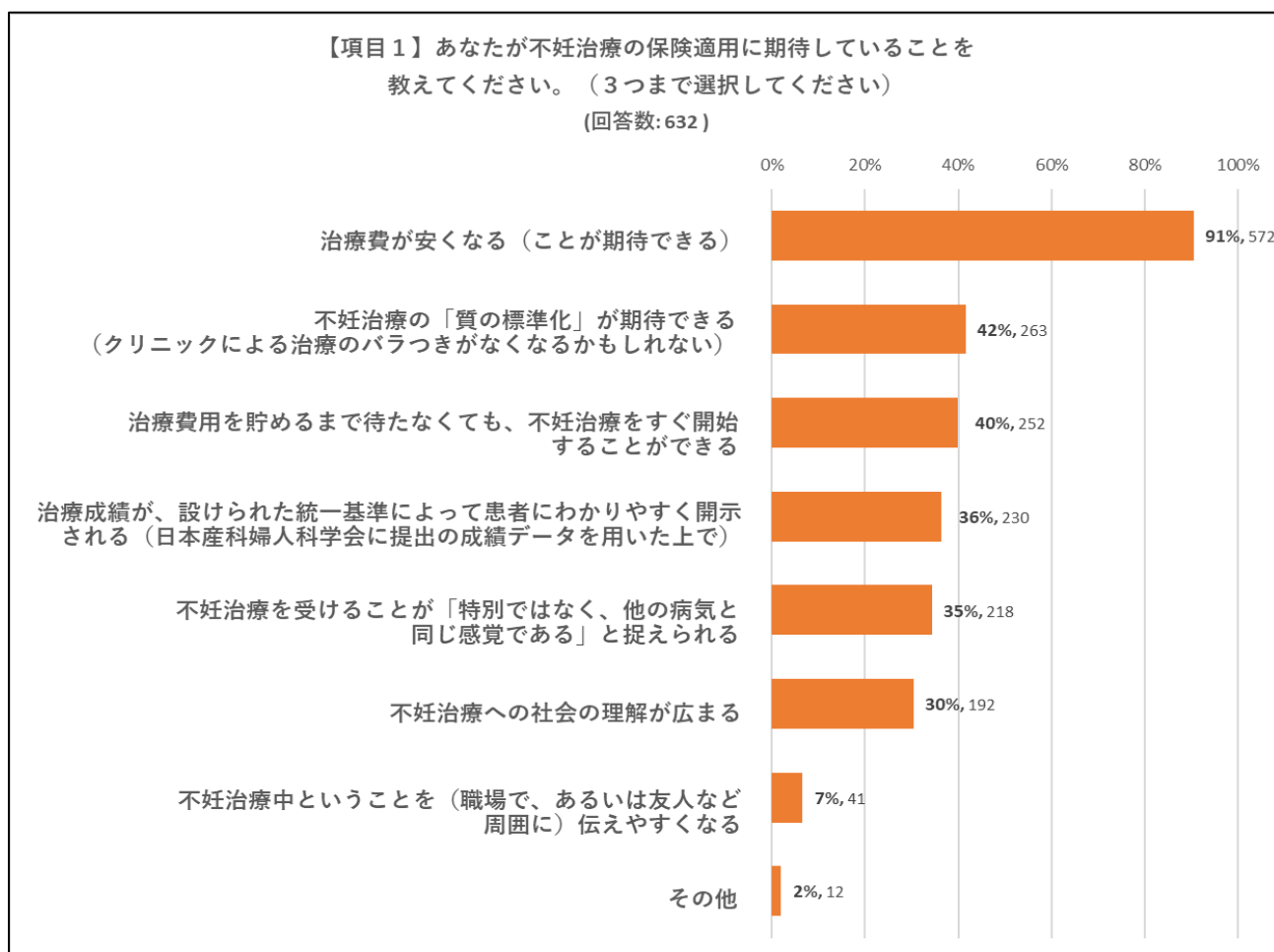
<その他の意見>

「男性不妊も含めて社会全体に広く周知し、休みやすい環境づくりを、国をあげてしてほしい」など

IV. 結果の詳細（別紙1の抜粋）

保険適用に「期待」すること

不妊治療の保険適用について「期待」する意見をグラフにして記載します。一番多い意見は「治療費が安くなる」で、それに「不妊治療の質の標準化への期待」「不妊治療をすぐ開始できる」「治療成績が開示される」「他の病気と同じ感覚である」と続いており、保険適用になること自体に加えて、当事者が不妊治療の医療全体の整備がなされることにも期待していることがわかります。



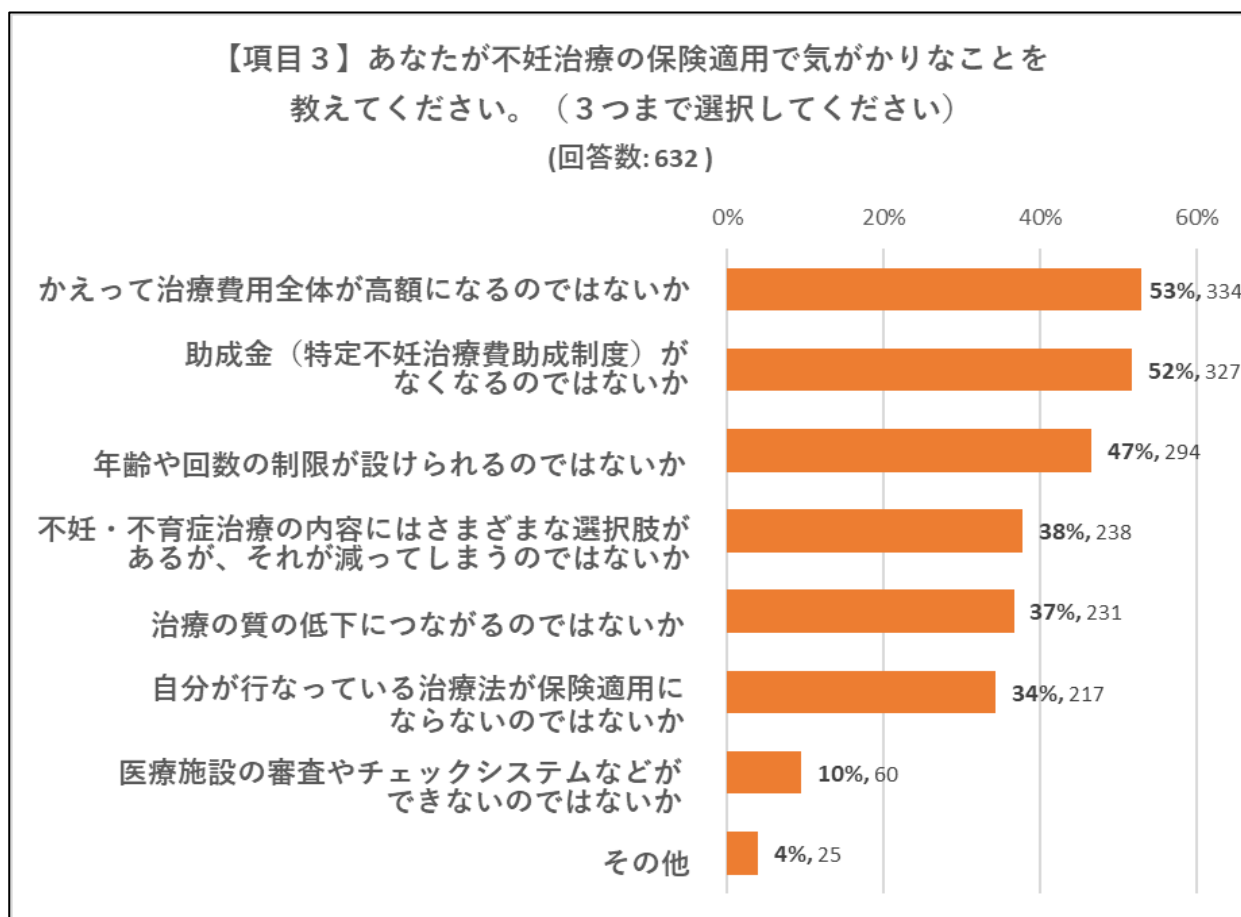
その他の主な意見

- ・ 保険適用外の治療であっても混合診療が可能である（ことが期待される）
- ・ 高額療養費制度、傷病手当制度がつかえる

- ・助成金の回数を使いきって諦めた人が再挑戦できる機会になる、など。

保険適用に関して【気がかり】なこと

不妊治療の保険適用について「気がかり」な意見をグラフにして記載します。一番多い意見は「かえって治療費が高くなるのでは」で、それに「助成金がなくなるのでは」「年齢や回数制限」「選択肢が減る」「不妊治療の質の低下につながる」などと続いており、多くの気がかりを持っていることがわかります。



その他の主な意見

- ・保険適用外と保険適用の治療を一緒にできるのだろうか（混合診療）
- ・さらに診療が混雑するのではないかと？患者の受け入れはどうなるか、クリニックが足りなくならないか、受けたいタイミングで治療を受けられなくなるのではないかと
- ・体外受精しなくてもいい人まで不妊治療を受けるかもしれない
- ・経験が少ない、専門ではない病院が不妊治療の診療を開始するなど質が悪い病院が増え、騙される人も増えそう
- ・不妊治療の研究を進めて行けるのか（クリニックでは難しくなるのではないかと）

保険適用に関する【その他】の意見

「その他」では自由に記述してもらいましたが、「期待」や「気がかり」に思っている意見と似たものが多く見られました。その意見の中から、上記と違う部分を抜粋して記載します。

- ・保険適用してほしい(PGT-A、不育症、男性不妊、凍結保存代、ワクチン)
- ・メンタルケアをしてほしい
- ・地域格差の是正をしてほしい
- ・保険適用の制度設計に関してわかりやすく開示してほしい、当事者の声を聞いて欲しい
- ・里親の認知向上を
- ・仕事と不妊治療の両立の配慮を
- ・若者や社会への施策を
- ・第三者提供の不妊治療についても考慮してほしい

以上が、結果の概要です。詳細は、別紙1と別紙2をご覧ください。

10日間という短い期間のWeb上での意見募集でしたが、632人もの意見が集まりました。当事者にとって、保険適用の検討が開始されたことにより、不妊治療の保険適用になることが現実的に感じられ、切実な想いを持っていることがうかがえます。回答者の半分以上が30代以下で治療中の当事者であることから、現在進行中の患者ならではの想いや意見であると考えられます。この意見の結果で最も注目すべきところは、「期待するのは、治療費総額が安くなること」、「気がかりなのは、かえって治療費総額が高額になるのではないか」という相反する想いです。期待と気がかりの両方に「混合診療にならないのだろうか」という意見があるなど、『経済的負担の軽減が実現されるかどうか』という点は当事者にとって一番気になっているところだと考えられます。

当事者にとっては、遠回りすることなく早く妊娠できることが一番です。そのために、経済的負担軽減とともに、治療成績開示や審査などを取り入れた医療の整備で質が低下することなく、不妊治療を受けやすい環境整備も必ず実施していただけますようお願いいたします。このさまざまな意見をこの機会に、ぜひ知っていただきたいと思えます。

最後に、2021年11月17日開催の第497回中央社会保険医療協議会総会でのヒアリングで、Fineが当事者の立場から発表した6項目の要望についても記載いたします。

<保険適用に際しての要望(NPO法人Fine)>

- 1、現行の治療の維持。患者の選択肢を減らさないでいただきたい
- 2、保険が適用されない部分に関して、助成金を残していただきたい
- 3、第三者機関による医療機関の審査を実施していただきたい
- 4、年齢別(1歳毎)の治療成績の開示をお願いしたい
- 5、事実婚のカップルの治療にも保険適用をお願いしたい
- 6、患者の心理的ストレス、メンタルケアへの体制を整えていただきたい

多くの当事者の意見を、是非とも、少子化対策の政策に活かしていただけますよう、お願い申し上げます。